

空を映す水の街

コンセプト

現代の私たちの暮らしは、敷地のまわりに垣をめぐらし、その中にきれいな庭をつくり眺めたり、洗濯物を干したりという閉鎖的で自分たちのためだけの使い方をしているように感じます。しかし、昔の日本では、みんな共同の炊事場や洗濯場、井戸などがあり「水」というものをシェアすることで豊かなコミュニティを形成していました。

「水」というのは人間が生活し、生きていくために必要不可欠なものです。

私は現代においてもこの水場の重要性を感じ、これを空き地の利用方法として提案します。

私たちの住む住宅地は、境界線で囲まれています。この境界線をなくし、家と家の間を「空き地」として考えます。

この空き地には、道路沿いにある用水から水を引き込み、さらに軒先から落ちる雨水をためることによって住宅のまわりに水場を形成します。

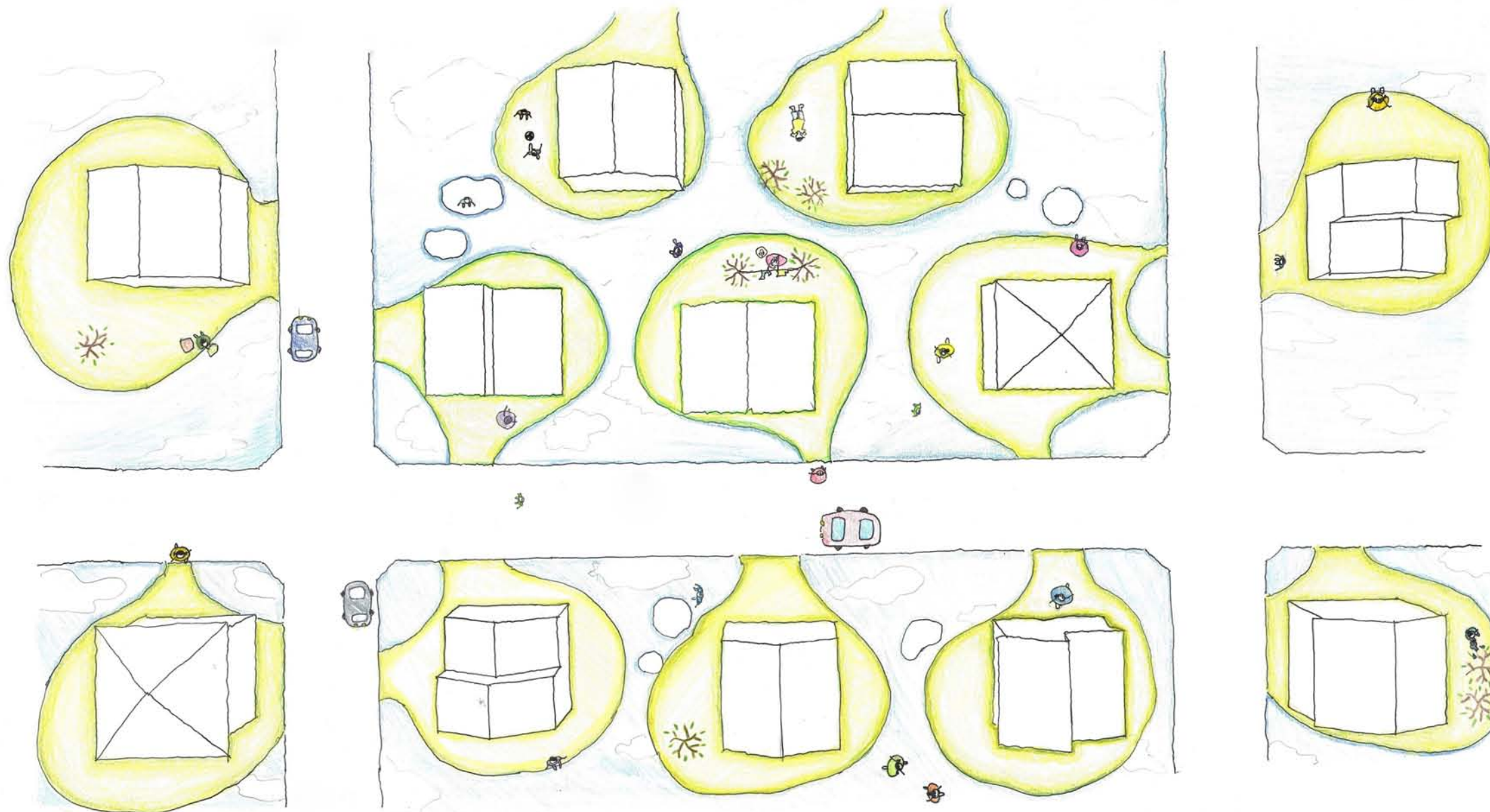
たまった水は天気が良ければ蒸発し、打ち水の代わりとなりヒートアイランド現象を防ぐことができます。また、生活の中での利用として野菜を冷やしたり、植物に水をあげたりすることもできます。

さらに、家と家同士が水の通り道でつながっているので、近所での冷やした野菜などのおすそわけや、洗濯しながらのお母さんたちの井戸端会議など交流が促進されます。

雨が降らない日は、水の中から飛び石が出てきて子供たちの水遊びの格好の場所になります。

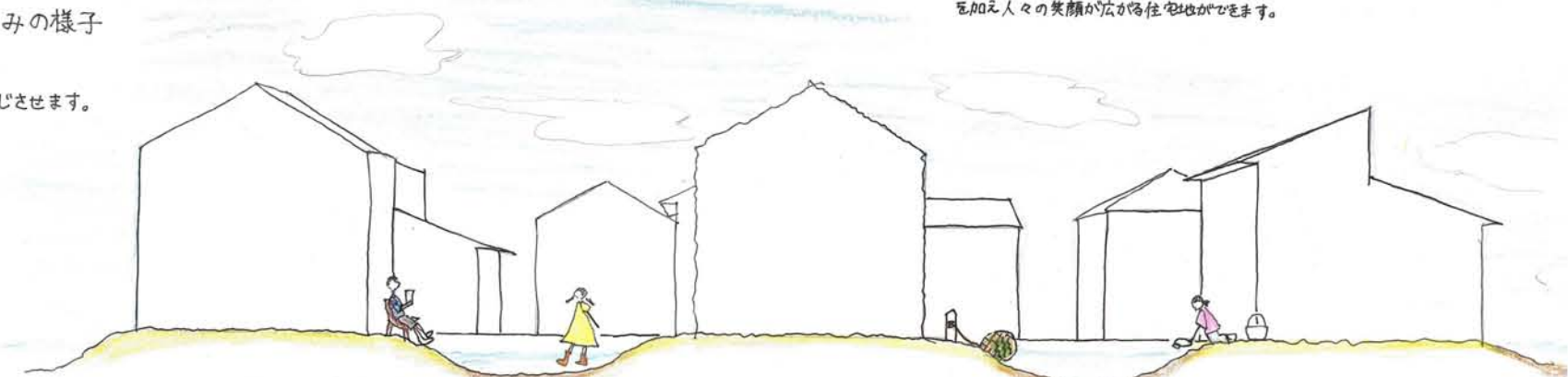
夕焼けや朝焼け、季節によって異なる雲のカクヤや虹、そして満点の星空が幻想的な街並みを作り出します。

このように、水場や空の変化を利用して生活に楽しさや、彩りを加え人々の笑顔が広がる住宅地ができます。



◀ 満点の星空で輝く街並みの様子

たくさん星が水面に映り、まるで星空の中にいるように感じさせます。



▲ 横から見た街並み

水が溜まり、水場が形成されます。この水場では、野菜を冷やしたり、水辺でゆっくり読書を楽しんだり、子供たちの水遊びの場になります。また、お母さんたちの井戸端会議など、近所での交流が促進する場にもなります。

▶ 朝焼け、夕焼けで赤く染まった街並みの様子

朝焼け、夕焼けが溜まった水の水面に反射してあたり一面が赤く染まります。

